

週 報

こひつじ

第41巻 13号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

偉大な国民

その三 聖書の朗読がもたらすもの

では、聖書はどのように読むべ
 て発せられるときに、いつそう力
 を発揮する。

聖書自身が勧めているのは、声
 を出して読むことである。つまり
 朗読である。牧師、テモテに対するパウロの助
 言は、

イスラエルの民がバビロン捕囚
 から、祖国に帰ってきたとき、「祭
 司エズラは、男も女も、すべて聞
 いて理解できる人たちからなる集
 団の前に律法を持って来て、・・・
 これを朗読した」（ネヘミヤ八の二、その冒頭にはこう書かれている。
 三）とある。

すると彼らは感激して泣いた。
 神のことばに對する、この感激が
 彼らを動かし、民族再生の力とな
 ったのである。

このように神の言葉は、音とし
 て聞いているのである。ただ朗読せよ、聖書はそう勧め

日本語には、朗読とは別に「素
 読」という言葉がある。

素読とは、意味の解釈を加えず、
 文字を声に出して読み上げること
 で、音読と似ているが、その実は、
 まったく違うものだそうだ。

「音読は文章の意味を理解して読
 み上げるのに対し、素読は文章の
 意味を理解しません」
 とある人は書いている。

江戸時代の寺子屋での教育も、
 素読が中心で、子どもたちは、先
 生のあとについて、漢詩や漢文を
 意味はよくわからなくても、繰り返
 し、声を出して読んだ。暗唱す
 るのではなく、ただ読んだ。それ
 が子どもたちの魂を鍛え上げてい
 った。

そのため素読の訓練を受けた時
 代の知識人と、明治二〇年以降、
 その訓練を受けなかった時代の知
 識人との間には、人としての器の
 大きさが違っていたとさえ言われ
 ている。

そこで最近になって、素読によ
 る訓練が見直されている。

確かに声を出して読めば、速度
 は落ちる。だからゆっくり読む。

正確に読む。そのため言葉は無意
 識のうちに魂の深みまで入ってゆ
 くのだろう。

『素読のすすめ』の著者は、こ
 う言っている。

「素読は有機農法における土づく
 りと同じで、即効性を求めない。
 意味や内容など理的な面につい
 て説明しないので、ことばの響き
 やリズムといった感性的な面だけ
 が、時間をかけてじっくり耕され、
 根がしっかりと育つ。表面的な意味
 をせつかに求めない。わかった
 つもりにならない。そのことがか
 えって好奇心を持続させ、精神を
 深く耕してくれる」

声を出して読むことの益を説い
 たのは、ヨーロッパでも同じだっ
 た。古代のある詩人は言った。

「その詩は私のもの。だが友よ、
 汝がそれを朗誦すると、ひどく姿
 を変えて、まるで汝のものよう
 になる」

またこんな言葉もある。

「書かれたものは残り、話された
 ものは空中に消えてゆく」

書かれたものはあとに残り、話
 されたものは消滅する、と理解し

そうだが、ほんとうの意味は、それとは反対で、以下のようなものだそう。

「書かれたものが声をだして読まないのなら、そのまま死んだ言葉として残り、もし声を出して読まれたら、それは翼を持ち、空を飛ぶことができるだろう」

言葉は声を出して読まれて初めて生きる。力を生み出す。

説教が、書かれたものとしてではなく、声を発せられるものとして、今なお福音宣教のために用いられているのはそのためだろう。「このみおしえのすべてのように、正しいおきてと定めとを持っていた偉大な国民が、いったい、どこにあるだろう」(申命記四の八)

と、モーセはイスラエルの民について言ったが、そのおきてと定めは、私たちにも与えられている。詩篇の記者にならって、「主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ」者でありたいものだと思う。(終)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時、第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。

○説教は米村牧師。

先週の礼拝

○司会は西岡潤也さん、説教と証は奈良福音教会の緒方牧師夫妻でした。

○「すべては福音のために(一コリント九章)」と題し、神の愛にふれたとき、ゆるせなかった自分をゆるし、愛せなかった自分を愛せるようになった。今では、自分をこのように変えてくださった方をひとりでも多くの人に伝えたいと語ってくださいました。

○作詞作曲の自分の歌も披露してください、感動的な礼拝でした。

○礼拝参加者は、九一名(男二八、女六三)。それに子どもが五名、合わせて九六名でした。

召天者記念礼拝案内

四月二〇日(日)は召天者記念礼拝です。遠くからおいになる

方を配慮して、礼拝は午前一〇時半からの開始となります。

合同礼拝です、第二礼拝にいられた方は、少し早めにおいでください。

それから教会墓地を、熊本地震で傷んだところもありましたので補修しました。きれいになった墓地で、礼拝のあと、追悼式をいたします。追悼式は午前一二時からです。今年もともに集まって、懐かしい方がたを偲ぶとともに、やがて私たちも天国へゆき、それらの方がたとお会いできるのだという希望を新たにしたいものだと思います。

○林田はるかさんが七月に出産の予定です。元気な赤ちゃんの誕生のために祈りください。

消 息

便り 緒方牧師夫妻

米村牧師夫妻へ。

奈良に無事戻りました。土曜日からの三日間の滞在、ほ

んとうにありがとうございました。日曜日の午後には阿蘇観光にまで連れて行っていたいただき、それも感謝でした。

また過分な謝礼に恐縮しております。このような小さな者を招き、夫婦共々、用いていただけことは感謝のほかありません。主の恵みによるものだと思います。

先生ご夫妻と食事をしながらゆっくりとお話しでき、おふたりの経験、エピソードなどを通して、たくさん学びと気づきを与えられ、大きな励ましを受けました。教会の方がたと食事をしたがらお交わりでき、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。手作りの食事最高でした！

とくに壮年の方がたが生き生きと主に仕えておられる姿には、励まされましたし、私たちの教会にもそのような方たちが与えられることへの希望をいただくことができました。

先生がたには、まだまだ教えていたきたいことがありますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。